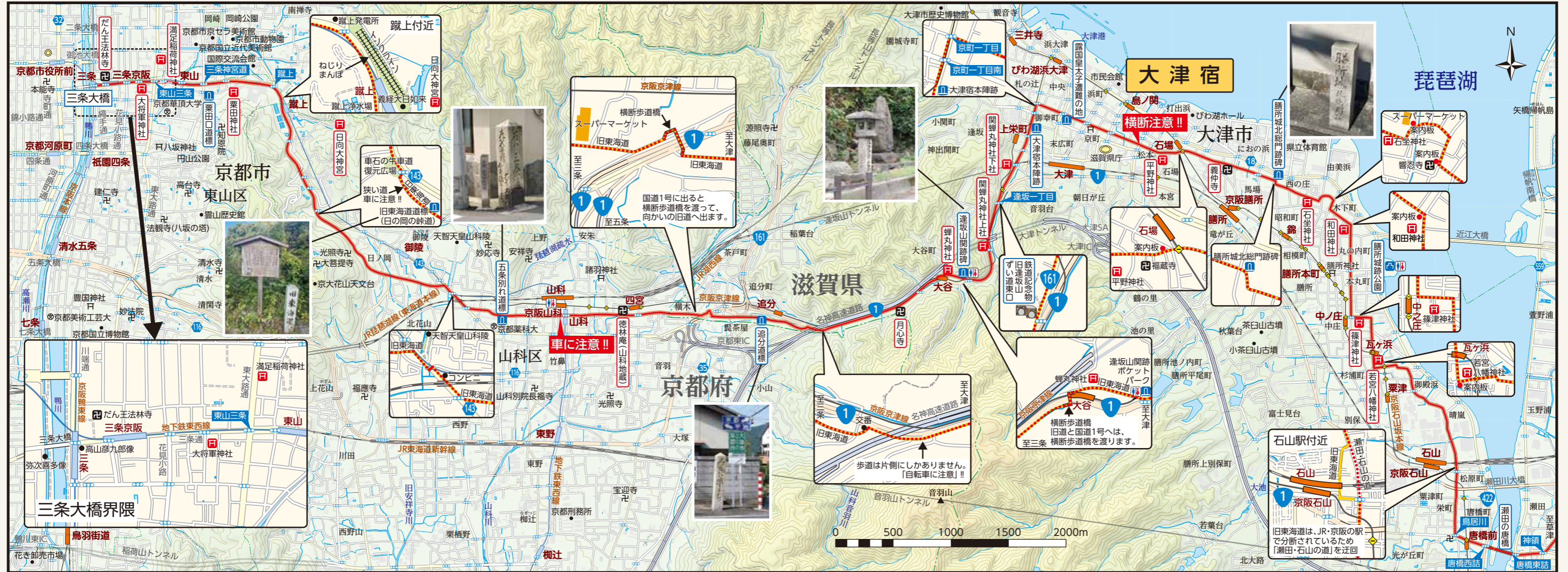


京都三条を出発し逢坂山を越え、滋賀県大津宿から瀬田の唐橋へ

京都三条から
瀬田唐橋
約18km

東の国をめざし、京都三条大橋を出発。蹴上インクラインを横手に車石の牛車道の復元広場を過ぎ、JR山科駅へ。追分道標から逢坂の峠を越えて、滋賀県へ。大津宿から木曾義仲ゆかりの義仲寺を過ぎ、膳所の旧城下町をぬけると近江八景・粟津晴嵐を経てJR・京阪石山駅から瀬田の唐橋をめざします。



京都三条大橋

鴨川にかかる三条大橋は、室町前期には架けられていましたが、天正18年(1590)、豊臣秀吉の命により大改造されました。江戸時代には、幕府の公儀橋となり、東国への出発点として、また東国からの表玄関としての役割を持ち、交通の要衝として重要な位置づけをもっていました。橋の西詰北側は、高札場とされたところで、現在も天正年間の大改造の際に使用された石の柱が残されています。南側には「東海道中膝栗毛」で知られる「弥次喜多」の銅像が建っています。



インクライン(義経大日如来)

明治時代、京都と琵琶湖を結び、水道用水の確保と舟運、水力発電のために琵琶湖疏水が建築されました。蹴上には、船が上りできない急な坂を台車を使って上下させたインクライン(傾斜鉄道)跡が残されています。



☆義経大日如来

蹴上のインクラインの上の船だまり、日向大神宮参道脇の疏水公園の小さな祠に祀られた石仏。源義経が、奥州の藤原氏のもとへ向かう途中、この付近ですれ違った平氏騎馬武將に水を蹴り上げられたの腹を立て、斬り殺したことを悔い、後に安置した9体の蹴上の石仏の一つと伝えられ、「蹴上」の地名の由来にもなっています。



大將軍塚

祭神は素戔鳴尊(すさのおのみこと)。桓武天皇が平安京造営の際、王城鎮護のため、京の四方に祀らせた大將軍神社のうちの1つ。特に、都の東の入口で、邪霊の侵入を防ぐ重要なところとされてきました。



車石の牛車道復元広場

京都市営東西線の開業に伴って廃線となった京阪電鉄京津線の軌道敷跡を利用し、牛車の実物大の見本や三条通の舗関石として敷設されていた車石を並べた復元広場が整備されています。



大津宿

江戸日本橋から53番目の東海道の宿場町。本陣2、脇本陣1、旗籠71軒、総家数3,650戸。宿内人口14,892人。宿場と琵琶湖の物資を集積する港町の機能を持ち、東海道の宿場の中で最大の人口を有し、賑わっていました。東西16町余・南北一里余で、宿機能の中心地の札の辻から北国街道(西近江路)が分岐していました。



月心庵(走井の井筒)

橋本関雪の別邸として建てられ、橋本氏亡き後、月心寺と号しました。寺内には、池泉回遊式庭園が広がり、小野小町百歳の木像や松尾芭蕉の句碑などがあります。このあたりは、平安時代から和歌にも詠まれた名水「走井」があり、この名水で作られた走井餅は名物でした。
●現在は申込制で公開
●TEL:077-524-3421
●志納金として
一口500円



逢坂の関記念公園

逢坂の関は、不破の関や白川の関などと並び歴史的に有名な関所として知られています。また、平安時代から蟬丸法師や清少納言など多くの歌人がこの関を歌った歌枕の地としても有名です。現在は記念公園として整備されています。



露国皇太子遭難地の碑

明治24年(1891)、ロシアの皇太子が、警備の巡查「津田三蔵」に斬りつけられるという事件(大津事件)があった場所です。



篠津神社

祭神は素戔鳴命(すさのおのみこと)。古くから産土神として庶民の信仰をあつめてきました。神社の表門は、旧膳所城の城門(本瓦葺・高麗門)を明治5年(1872)に移築したものです。



関蟬丸神社(上社・下社)

関の鎮守、道祖神として創建されたと考えられています。琵琶の名手として知られ、「これやこの行くも帰るも別れつつしるもしらぬもあふさかの関」という歌でも有名な蟬丸の霊が合祀されています。



粟津の晴嵐

近江八景のひとつ。膳所から石山まで続く松並木の風景は、松くい虫などの被害をうけましたが、往時の風景をとりもどすため、御殿浜から晴嵐に至る湖岸なぎさ公園には松並木が植樹されています。



義仲寺

平家討伐の挙兵で京都に入った木曾義仲は、源頼朝に追われ、粟津合戦で敗死しました。義仲を供養するため、室町時代末に守護の佐々木氏が寺を建立。境内には、芭蕉の辞世の句「旅に病て夢は枯野をかけめぐる」など多くの句碑あり、全城が国の史跡に指定されています。
●TEL:077-523-2811 ●拝観時間:9:00~17:00
●拝観料:一般300円 ●休み:月(祝日は開門)

